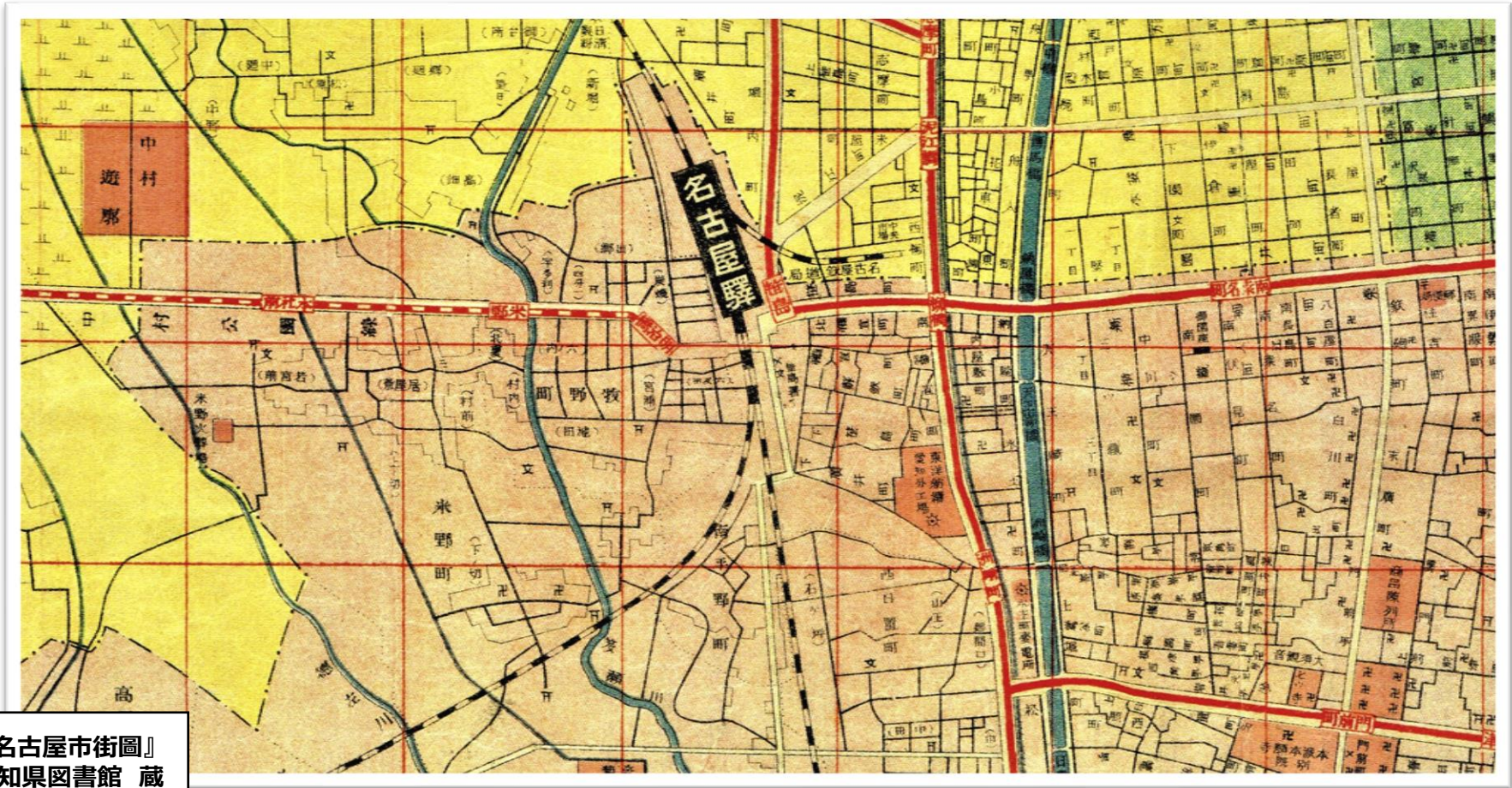


大須から中村へ



史料から紐解く戦前名古屋の遊廓



『名古屋市街圖』
愛知県図書館 蔵

畠野佳司 東海遊里史研究会

戦前名古屋の遊廓（大須・旭廓）



貸座敷と娼妓数

- 明治10年（九日新誌）
105軒 318人
- 明治41年（愛知県統計書）
173軒 1,508人
- 大正2年（愛知県統計書）
175軒 1,715人（芸妓271人）
- 大正11年（愛知県統計書）
168軒 1,147人（芸妓572人）

※芸妓数は門前署管内の人数

明治初期から約50年、大須に遊廓があった

旭廓の沿革



【安政年間】

- 大須・日出町に俳優（芸人）が寄宿する北野新地開設

【幕末・明治初期】

- 幕末から明治維新にかけて北野新地に遊女屋が現れる

【明治7年】

- 愛知県によって北野新地での席貸茶屋・娼妓稼業が許可

【明治8～10年】

- 北野新地西側一帯への移転認可、旭廓（しんち）開設

【明治末期】

- 娼妓による自由廃業運動が盛んになる

【大正12年】

- 旭廓廃止、名古屋西部郊外へ移転、中村遊廓開設

戦前名古屋の遊廓（中村遊廓）



『図説 蓬左風土誌』



貸座敷と娼妓数

●大正12年（愛知県統計書）

126軒 1,165人

●昭和5年（愛知県統計書）

139軒 1,692人

●昭和12年（愛知県統計書）

140軒 1,983人

●昭和19年（愛知県公文書）

19軒 200人

100年前、名古屋市西郊に開設された大遊廓

中村遊廓（名樂園）の沿革



【大正12年】

大須・旭廓廃止、中村遊廓（中村旭廓）開設

【昭和7年～】

遊廓のモダン化。設備や遊興システムの変革期

【昭和12年】

娼妓数、遊客数の最盛期。日中戦争開戦⇒戦時体制へ

【昭和19年】

貸座敷の多くが軍事関連企業の工員寮に転用

【昭和20・21年】

公娼制度廃止、**名樂園**と改称。進駐軍慰安所を経て、特飲街（赤線）へ移行

【昭和32年】

東海地方の赤線業者は廃業、**名樂園**廃止